

チョウトンボ

Rhyothemis fuliginosa Selys

【選定根拠】 a 分布域の一部で個体数が減少

【形態】 腹長21～26mm、後翅長33～38mm。黒みの強い金緑色あるいは紫藍色に輝く大きなはねを持ち、一見、チョウのような飛び方をする特異な中型トンボ。

【分布】 本州、四国、九州に分布するが、東北地方では局地的である。

【県内の分布、生息状況】 会津、浜通りでは産地が散見できるが、中通りでの確実な生息地はほとんどない。

【生息に影響を与えている要因】 池沼開発 水質汚染

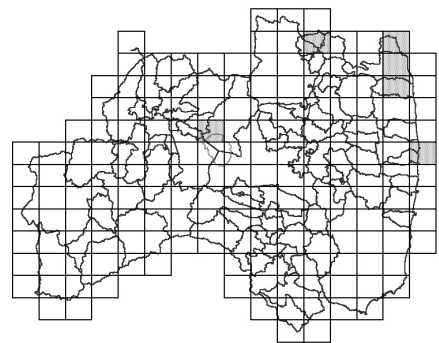
【主要文献】

高橋淳志(2000)国見町でチョウトンボを採集。ふくしまの虫, (19): 54.

三田村敏正(1986)福島県初記録のトンボ3種。ふくしまの虫, (5): 7-8.

横井直人・三田村敏正(1986)法正尻および周辺地域のトンボ相(第2報)。ふくしまの虫, (5): 19-23.

横井直人・三田村敏正(1987)会津若松市赤井谷地のトンボ相。ふくしまの虫, (6): 26-28.



アイヌハンミョウ

Cicindela gemmata aino Lewis

【選定根拠】 a 分布域の一部で個体数が減少 b 分布域の一部で生息条件悪化

【形態】 体長14～17mm。上翅は緑銅色をしており、白色の斑紋を有する。ニワハンミョウおよびミヤマハンミョウとの区別が難しいが、上唇の形状等で判別される。

【分布】 北海道、本州、四国、九州、対馬に分布しているが、河原やその周辺の草地などに見られ、局所的に個体数の多いところがある。

【県内の分布、生息状況】 いわき市と榎葉町の河川上流域で見つかっており、いわき市では狭い河原に比較的多くの個体が見つかっている。本種は春先の短い期間に出現するため、発見される機会が少ないと思われる。

【生息に影響を与えている要因】 河川改修

